

# つながる

Tsu-na-ga-ru



## SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」  
**LINKED**  
*plus+*  
病院を  
知ろう

### 認知症になっても 安心の地域づくり。

認知症疾患医療センター特集

## CONTENTS

- 1 検査・診断を学ぼう
- 2 チーム医療を知ろう
- 3 HOSPITAL NEWS

### 院長メッセージ

超高齢社会の進展に伴い、認知症の増加が社会問題になっています。当院では認知症やせん妄のある入院患者さんを多職種チームで支援すると同時に、院内に「認知症疾患医療センター」を開設。地域で暮らす認知症患者さんのサポートに力を注いでいます。今号の特集は、そうした認知症に対する取り組みについて紹介します。ぜひご一読ください。

# 検査・診断を学ぼう

今回のテーマ

脳血流シンチグラフィ

## 脳血流シンチグラフィとは？

脳の血流を評価して、脳の機能を推定。  
場所や程度を診つけ、正しい診断と治療に結びつけます。

- 形態ではなく、機能を診る検査。
- 脳血流のわずかな変化を画像化。

シンチグラフィ検査は、ごく微量の放射性医薬品を静脈注射し、体内で放出する放射線を、体外から特別なカメラ装置で測定、薬の分布を画像化していく検査です。今回ご紹介する脳血流をはじめ、骨や心筋血流、肺血流などを診るのに用いられます。

シンチグラフィ検査の特徴は、CT検査やMRI検査のように形態を診るのではなく、機能を診ることにあります。脳血流の場合、脳は血流によって運ばれたブドウ糖や酸素を使って活動していますが、正常に機能するには、十分な血流が必要になります。すなわち、血流の異常が脳の機能を反映する可能性があるということです。

脳血流シンチグラフィは、脳血流のわずかな変化を診つけるのに有効な検査です。薬に含まれる放射線は人体に害を及ぼす量ではなく、副作用もごくまれです。



- 認知症の正しい診断、
- 正しい治療に力を発揮。

認知症には、アルツハイマー型認知症をはじめ、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症等があります。左記において、「血流の異常が脳の機能を反映する」と述べましたが、認知症の種類によって、血流に異常が起こる場所が異なります。すなわち、脳血流シンチグラフィは、どこの血流が落ちているか、さらに、どれくらい落ちているかで、認知症の種類、さらには、進行の程度がわかるというものです。

一方、認知症の発症が懸念され検査を受けても、認知症ではなく、うつ病やせん妄の可能性が高いといった診断に結びつくこともあります。認知症はもちろん、どの病気でも、診断が異なれば治療も異なります。脳血流シンチグラフィは、正しい治療に結びつける、正しい診断に有益な情報を提供する検査といえます。



### Staff's message



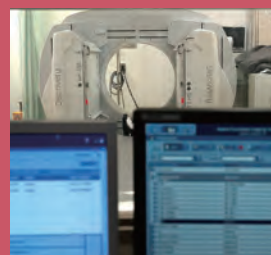
医療技術局 放射線室 主任  
柳川佑典

**認知症は、脳の萎縮の前に血流が低下。早期発見は、その後の生活にも影響。**

認知症で起こる脳の萎縮は、MRI検査でわかります。しかし、萎縮の前に、血流が低下し、それによって萎縮が始まるとわれています。MRI検査で萎縮が出なくても、その前段階の血流の低下が、脳血流シンチグラフィではわかることがあります。特に若年性アルツハイマーが懸念され、少し兆候がある場合、ぜひとも脳血流シンチグラフィをお受けいただきました

と思います。

ただこの検査は、検査途中で止めることができません。というのは、使用する薬から出ているエネルギーが落ちたり、脳に集まっている時間が限られているからです。従って、30分程度、じっと横になっていただくことだけご注意ください。



プラス  
a

▶ 上手な医療のかかり方① 過度な受診控えは健康上のリスクを高めてしまう可能性があります。



SPECIAL REPORT

# 認知症になっても 安心の地域づくり。

## 認知症疾患医療センター特集

認知症の診断・治療、相談業務を担う  
 拠点病院として、地域に貢献する。



### CHAPTER 01 認知症・せん妄の 入院患者を支援する。

「認知症患者さんが、術後せん妄になっ  
 て困っています。すぐ来てもらえますか」  
 ある日の岡崎市民病院、外科系の病棟か  
 ら、認知症・せん妄サポートチーム（詳しく  
 はP.2参照）の榎田道人（脳神経内科・高次  
 脳機能内科統括部長）に連絡が入った。榎  
 田はすぐに病棟に向かい、患者の症状を確  
 認した。患者は自分が手術を受けたことを  
 全く覚えていない。自分がどこにいて、なぜ  
 寝ているのかわからず、体についている管を  
 抜いて興奮していた。榎田は患者と目線の  
 高さを同じくして、穏やかな口調で説明し  
 たが、不穏な行動は治まらず、術後の治療  
 継続が困難であった。やむなく鎮静剤を処  
 方することを決断した。

認知症はいろいろな原因で脳の働きが  
 悪くなることにより、多様な症状を引き  
 起こし、社会生活に支障が出る状態をい  
 う。とくに、入院や手術をきっかけに、せん  
 妄（一種の意識精神障害）になることも多  
 い。「手術後に暴れては、命の危険もありま  
 す。身体拘束をできる限りしないことを大  
 前提として、必要に応じて薬や道具で行  
 動を抑制し、必要な急性期治療を安全に  
 受けてもらえるよう支えるのが私たちの  
 役割だと考えています」と榎田は話す。

せん妄の他、夜眠れない、大声が出る、徘徊  
 する、指示が理解できない、手足の暴力が

### CHAPTER 02 認知症とともに暮らす人を しっかり支えていきたい。

認知症への理解を地域に広めるために、  
 同院では認知症疾患医療センター（詳しく  
 はコラム参照）を開設して、専門的な診断  
 や治療、相談を通して、認知症とともに暮  
 らす人や家族を支援している。同センター  
 のセンター長を兼任する榎田は次のよう  
 に話す。「地域の認知症対策で大切なこと  
 は、病気の早期発見と予防です。認知症  
 は治らない病気ですが、進行を遅らせるた  
 めの新しい薬剤がどんどん開発されていま  
 す。軽度認知障害を早く発見できれば、そ  
 うした最新の治療へ繋ぐこともできます。  
 また、どうすれば認知症になりにくいかと  
 いうこともわかってきて、認知症予防のプ  
 ログラムなども開発されています。当セン  
 ターではすでに、リハビリスタッフや院外に  
 出向いて、認知症予防運動を指導する取  
 り組みにも着手しています。今後は、こう  
 した予防も含め、岡崎市の長寿課や医師

### BACKSTAGE

#### 認知症患者を支える 地域ネットワークの必要性。

- 高齢になっても住み慣れた町  
 で暮らしていく上で、認知症の増  
 加が大きな問題になっている。認  
 知症のケアは一つの組織、一つ  
 の職種で実践できるものではなく、  
 地域全体の取り組みが必要だ。
- 岡崎市民病院が拠点となり、  
 地域の行政や医療・介護に関わ  
 る人々が緊密なネットワークを構  
 築していく。その積極的な取り組  
 みが、「認知症になっても幸せ」と  
 いえる理想の社会を作る大きな  
 力になるのではないだろうか。



出てしまつ、など、認知症の症状は多種多  
 様だ。しかし、突拍子のない行動でも、認知  
 症患者にはきちんとした理由があるという。  
 「なぜそんなことをするのか」と叱る前に、こ  
 本人の話を傾聴し、心情を理解しようとし  
 る態度が大切です。たとえば術後せん妄に  
 なるのも、ご本人にしたら当然だと思っ  
 ます。目が覚めたら、いきなり知らない人に  
 囲まれ、たくさんの方に繋がれているわけ  
 ですから」と、榎田は患者の気持ちに寄り添  
 う。認知症への理解を深め、認知症ケアの  
 スキルアップを図るために、同院では認知症対  
 応マニュアルの整備や院内勉強会にも力を注  
 いでいる。「院内の認知症ケアのレベルは徐々  
 に上がってきましたが、認知症の原因で、他  
 の病気の治療が充分に行われないうリスクは  
 常にあります。それらを少しずつ減らしてい  
 くことが必要だと思います」と榎田は言っ

### COLUMN

● 認知症疾患医療センターは、認知  
 症患者とその家族が住み慣れた地域  
 で安心して生活するための支援の一  
 つで、全国に429カ所（平成30年  
 9月現在）の病院に設置されている。  
 岡崎市民病院は、平成28年4月1  
 日、愛知県から岡崎市・幸田町を圏  
 域とするセンターに指定された。

● 同センターでは、保健・医療・介護機  
 関等と連携を図りながら、認知症疾患  
 に関する鑑別診断、認知症に関する専  
 門的な医療福祉の相談に添えている。

会の先生方と連携しながら、当センターが  
 （検診の窓口）として機能していきたいと  
 考えています」と榎田は意気込みを語る。

さらに榎田は、認知症疾患医療センター  
 を多職種ネットワークのハブ（中継点）とし  
 て機能させていこうと考えている。「認知  
 症という病気は、医療だけで解決できるも  
 のではありません。リハビリスタッフ、公認  
 心理師、ソーシャルワーカーなど多様な専  
 門家が関わり、医療・介護・福祉の一体的な  
 サポートを提供する必要があります。患  
 者さんを中心に、院内外が多職種が繋が  
 る仕組みを作り、認知症を患っても安心し  
 て社会生活を営んでいけるような環境を  
 整えていきたいと考えています」。最後に、  
 認知症とともに暮らす人々を支える上で大  
 切なことは何かを聞いた。「認知機能を維  
 持するには、人との繋がりが非常に重要で  
 す。患者さんが孤独にならない、孤独にさ  
 せない、そんな地域社会づくりをめざして  
 いきたいですね」。穏やかな表情で、榎田は  
 そう締めくくった。



# 岡崎の Team

# チーム医療を知ろう

今回のテーマ

認知症・せん妄サポートチーム(DST)

認知症やせん妄を持つ患者さんが  
安全安楽に入院できるよう支えています。

多職種が集まって、  
認知症やせん妄を持つ  
患者さんを支援しています。

いろいろな原因で脳の働きが低下する「認知症」、入院や手術などのストレスをきっかけに一時的な意識精神障害を発症する「せん妄」。こうした症状のある患者さんが安全安楽に入院できるようサポートするのが、認知症・せん妄サポートチーム(DST)です。

チームのメンバーは、脳神経内科の医師をはじめ、看護師、作業療法士、薬剤師、公認心理師、社会福祉士、精神保健福祉士までの多彩な顔ぶれ。週に1回のカンファレンス、そして、週に2回の病棟回診を通じ、問題行動のあるすべての入院患者さんに面談し、それぞれに適した対応策をみんなで考えています。各病棟から寄せられる相談案件は、年間約200件。その数は年々、増加傾向にあり、DSTの使命はますます重要になっています。



症状に応じたケアを実践し、  
患者さんが人間らしい生活を  
送れるよう支えています。

認知症への対応策には3つの柱があります。一つは、薬物療法。認知症そのものに対する薬物の他、睡眠障害やうつ症状などを和らげる薬を処方します。二つ目は、非薬物療法。たとえば、運動療法やレクリエーションなどを通して、精神的な安定を図ります。三つ目は、ケアの工夫、関わり方です。病棟看護師を中心に適切なケアを提供することで、不安、幻覚・妄想、ひとり歩きといった周辺症状の緩和をめざします。DSTではこれらの方法を適切に組み合わせ、できる限り身体拘束を減らしながら、一人ひとりがその人らしい入院生活を送れるよう支えています。

また、職員全員が認知症への正しい理解を持ち、質の高いケアができるよう、院内での講習会や勉強会にも力を注いでいます。

## Staff's message



医療技術局 リハビリテーション室  
地域医療連携室兼務 作業療法士  
肥後和明

認知症患者さんを「人」として尊重し  
その人らしい生活を支えています。

認知症は誰がなってもおかしくない病気です。65歳以上になると、5人に1人は発症するといわれています。

私たちが認知症のケアで一つの目標にしているのが、その人らしい入院生活を実現することです。そのためには、患者さんを一人の「人」として尊重し、その人の立場に立ってケアを行うことが必要です。一見、不可解に見

える行動にも、実はそれぞれ理由があります。そうした知識を、院内の職員はもちろん、院外の方々とも共有しながら、この地域で認知症の方が人間らしく暮らしていけるようお手伝いしていきたいと考えています。



プラス  
α

▶上手な医療のかかり方② コロナ禍でも健診や持病の治療、お子さまの予防接種などの健康管理は重要です。

# HOSPITAL NEWS

岡崎市民公開講座「認知症講演会」開催。  
当院の梶田医師が「認知症の基礎知識」をお話します。

岡崎市医師会・岡崎市民病院認知症疾患医療センター・岡崎市が主催する「令和3年度 岡崎市民公開講座」にて、当院の脳神経内科・高次脳機能内科統括部長 兼 認知症疾患医療センター長の梶田道人医師が、講師を務めることとなりました。認知症はどうやって診断するのか、治療や予防はどうすればよいのか、一緒に学んでみませんか？ ぜひ皆さんご参加ください。



◀講師を務める梶田道人医師



## 開催概要

認知症を知ろう  
— 診断／治療に関する基礎知識 —

入場料  
無料  
定員  
200名

|      |   |
|------|---|
| 開催日時 | 令和3年10月20日(水)<br>14時～15時30分(開場13時30分)                     |
| 開場   | 岡崎市せきれいホール<br>(岡崎市朝日町3丁目36番地5)                            |
| 講師   | 岡崎市民病院<br>脳神経内科・高次脳機能内科統括部長<br>兼 認知症疾患医療センター長<br>梶田 道人 医師 |
| 主催   | 岡崎市医師会・岡崎市民病院<br>認知症疾患医療センター・岡崎市                          |

## 事前申込が必要です

受付  
期間  
令和3年  
9月8日(水)～  
10月8日(金)

あいち電子申請・届出システム、  
郵送、電話、FAXにて受付  
※定員に達し次第、受付を終了します。



あいち電子申請・  
届出システムはこちら

## お申し込み・お問い合わせ先

岡崎市役所 福祉部 長寿課  
TEL 0564-23-6837 FAX 0564-23-6520



## 市民公開講座 詳しくはこちらから

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により、中止または延期になる場合があります。ご了承ください。

## 20分で聞けちゃう! 旬の健康情報

エフエムEGAO「イブニングワイド」で  
当院の医療スタッフが健康情報を発信!

「いまどき旬」コーナー 18:00～

- 令和3年  
10月28日(木) いま、あなたに知ってほしい。  
糖尿病の真実  
糖尿病看護認定看護師 三浦恵子
- 11月18日(木) 皮膚トラブルから患者さんを守る  
皮膚排泄ケア看護認定看護師 山田昌子
- 12月16日(木) 超音波検査で早期発見:  
がん患者さんを心不全から救う  
超音波検査室 室長 片山知子



エフエム  
EGAO  
(76.3MHz)



これまでの  
放送内容は  
こちらから!

## 病院広報誌 特設サイト



LINE(公式)  
アカウント

こちらから



岡崎市民病院  
OKAZAKI CITY HOSPITAL

〒444-8553 岡崎市高隆寺町字五所合3番地1  
TEL 0564-21-8111 https://www.okazakihospital.jp/

つながる  
Tsu-na-ga-ru  
2021 10月号  
No.07

発行責任者/院長 早川文雄 発行/岡崎市民病院 広報戦略チーム  
記事提供/中日新聞広告局 編集協力/プロジェクトリンク事務局 発行/2021年9月